

関市議会 議会運営委員会 行政視察報告書

1 視察日程 平成30年1月29日（月）～ 1月30日（火）（2日間）

2 視察事項

大阪府八尾市

- ・開かれた議会、身近に感じる議会づくりについて
- ・主権者教育について
- ・大学との連携について
- ・委員会の機能強化について

兵庫県西宮市

- ・タブレットの活用について
- ・開かれた議会、身近に感じる議会づくりについて
- ・委員会機能の活性化について

3 参加者

| | | | | |
|------|-----|---|---|-----------|
| 委員長 | 波多野 | 源 | 司 | |
| 副委員長 | 後藤 | 信 | 一 | |
| 委員 | 渡辺 | 英 | 人 | |
| 委員 | 土屋 | 雅 | 義 | |
| 委員 | 田中 | | 巧 | |
| 委員 | 足立 | 将 | 裕 | |
| 委員 | 太田 | 博 | 勝 | |
| 委員 | 小森 | 敬 | 直 | |
| 議長 | 三輪 | 正 | 善 | |
| 随行者 | 西部 | 延 | 則 | （議会事務局次長） |
| 随行者 | 林 | 良 | 広 | （議会事務局） |

- 視察No. 1
- ・開かれた議会、身近に感じる議会づくりについて
 - ・主権者教育について
 - ・大学との連携について
 - ・委員会の機能強化について

訪問日時 平成30年1月29日（月） 午後1時30分～午後3時10分

訪問先 所 在 大阪府八尾市本町1丁目1-1
名 称 八尾市役所
担当部署 議会事務局

説明内容（概要）

八尾市議会は、開かれた議会の取組として「八尾まめっこ議会2013」、「八尾河内音頭まつり議会」、「防災河内音頭まつり議会」の開催、主権者教育の推進として「18歳の選択「やお未来議会2016」」の開催や「市議会×高校生プロジェクト」を実施している。また、政策立案機能の強化として「大阪経済法科大学との地域連携」、常任委員会の機能強化として「所管事務調査」を開始するなど、様々な議会改革に取り組んでいる。

主な具体的な取組は、次のとおりである。

1 開かれた議会、身近に感じる議会づくり

（1）八尾まめっこ議会2013

八尾市議会65年間の歴史の中で初めての取組として、平成25年5月、議場において八尾市まめっこ議会2013を開催、市内29小学校のうち7校から4～6年生の児童33名が参加した。年長児童から選出した「子ども正副議長」の進行により、「まめっこ議員」が演壇で私の学校・地域自慢をテーマに意見発表を行い、市議会議員との対話や終了後の議員案内による議会関連施設の見学を通して、市議会への理解と関心を高めた。

（2）八尾河内音頭まつり議会

河内音頭の本場として河内音頭の魅力を力強く発信するとともに、開かれた議会、発信する議会の取組を一段と推し進め、市議会に対する市民の親しみと関心を高めるために、平成25年9月、議場において八尾河内音頭まつり議会を開催した。参加者全員がはっぴを着用し、八尾の魅力大使である河内家菊水丸氏による八尾市議会65年の歴史を題材とした河内音頭が披露された。傍聴者は100名を超え、市民からは「これからも市民が参加できる機会を作ってほしい」との意見が出された。

（3）防災河内音頭まつり議会

平成28年9月定例会初日となる9月1日が「防災の日」であることにちなみ、防災について市民とともに考える機会として、また、9月11日の八尾河内音頭まつりの魅力を発信することを目的として、本会議開会に先がけ議場において防災河

内音頭まつり議会を開催した。はじめに熊本地震被災地へ派遣された市職員約20名が災害支援活動報告を行い、続いて市議会が作詞したオリジナルの「防災河内音頭」を発表、八尾本場河内音頭連盟のメンバーによる演奏と踊りが披露された。

2 主権者教育

(1) 18歳の選択「やお未来議会2016」

平成28年7月執行の参議院議員選挙から選挙権年齢が18歳以上に引き下げになることから、八尾市選挙管理委員会と共催、大阪府選挙管理委員会の協力、市及び市・府教育委員会の後援により、主権者教育の一環として平成28年2月、議場において18歳の選択「やお未来議会2016」を開催した。市内4高等学校の生徒25名、大阪経済法科大学の学生8名が参加、約100名の傍聴者があった。第1部は府選管職員による選挙を知る授業の後、模擬市議会議員選挙を実施し、生徒・学生が選挙を体験した。第2部は高校生から市の課題や未来に臨むこと（18歳からの提言）の発表のほか、平成27年統一地方選挙時の選挙公報を活用した議員との対話を行うなど、議会制民主主義を体験した。

(2) 市議会×高校生プロジェクト

若い世代の市議会への関心を高めることを目的に、平成29年11月、市議会×高校生プロジェクトを開始した。第一弾は、平成29年9月定例会号議会だよりの題字を八尾高校の書道部が作成、活動写真を掲載し、表紙を飾った。第二弾は、平成29年12月定例会号議会だよりの題字を八尾北高校の書道部が作成、美術部、写真部の作品を表紙に掲載した。今後も座談会など様々な企画を検討している。

3 大学との連携

(1) 大阪経済法科大学との地域連携

平成25年2月、市議会と大阪経済法科大学において、地域連携に関する覚書を締結した。知的資源が集約する大学と市議会が連携することで、政策立案機能の強化・充実を図っている。覚書に基づき大学教授を招聘でき、議会運営上の課題を検討する際に、専門的知見を積極的に活用することが可能となった。また、学生に対しては、市議会事務局へのインターンシップの受入れなど実務経験の機会の提供を行っている。

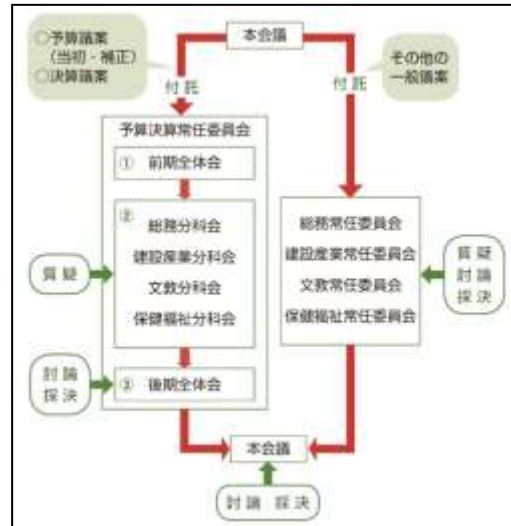
4 委員会の機能強化

(1) 常任委員会の所管事務調査

市長部局に対する監視機能をさらに強化するとともに、専門性を発揮した政策の提案や提言を目的として、平成23年9月から各常任委員会において所管事務調査を開始した。各常任委員会は、所管する事務事業について年度ごとにテーマを絞ったうえで調査研究を行い、年度末に委員会としての調査結果報告を市長部局に提出する。調査結果報告を受けた市長部局は処理経過と結果を報告する流れとなっている。

(2) 予算決算常任委員会の設置

従来、予算審査については各所管の常任委員会に分割して付託、決算審査については7名で構成する決算審査特別委員会を設置し、審査していたが、予算について審査した委員が決算について審査していないこと、予算の分割付託について解消する必要があることなどの課題があった。このような課題を解決するため、平成26年12月に委員会条例を改正し、5番目の常任委員会として予算決算常任委員会を設置した。



主な質疑応答

質問 平成26年に大規模自然災害発生時の対応要領が策定されているが、議会における防災訓練の状況は。

回答 平成30年1月に行った市当局と議会合同の防災訓練では、勤務時間中に震度6弱の地震が発生したという想定で、詳細なシナリオ無しで実施した。対応要領に基づき安否情報の収集訓練などを行ったが、安否確認メールの返信率は48%という結果であった。

質問 まめっこ議会や未来議会などの行事に市民が多く参加しているが、通常の議会の傍聴者も増加しているのか。また、投票率向上といった効果はあったか。

回答 行事には多くの参加があるが、議会の傍聴者はなかなか増えない状況である。投票率への影響は不明であるが、主権者教育の推進に当たっては、学校と議会が連携し、継続して取り組むことが大切と考えている。

質問 未来議会などに参加した生徒・学生から「将来議員を目指す」というような反応はあるか。

回答 参加した生徒から、「議員とはじめて話をして、議会は私たちの身近な課題について話し合いをする場であることがわかった。職業の選択肢の一つとして議員の仕事に興味をもった。」との感想があった。

質問 予算決算常任委員会の流れについて、予算・決算の議案を前期全体会の後に総務分科会など4分科会に送付しているのであれば、直接、総務常任委員会など4常任委員会に付託し、審査することと大きく変わらないのではないか。あえて予算決算常任委員会を設置するメリットは。

回答 予算の分割付託を解消するための仕組みであるが、審査する過程は従前の常任委員会に分割付託していた時とあまり変わっていない。ただし、分科会では質疑のみ行い、討論・採決は後期全体会で行っており、一つの委員会で結

論を出すということに意義があると考えている。また、来年度からは常任委員会の任期を2年とする予定であり、委員が同じ分科会で予算・決算を審査できることから、より充実した審査を期待している。

質問 予算決算常任委員会において理事会を設置しているが、メンバー構成及び協議内容は。

回答 各会派の代表者1名ずつで構成しており、予算決算常任委員会の議事運営について協議する場である。

質問 予算決算常任委員会の4分科会の審査日程は。委員は所属する分科会以外の分科会を傍聴することは可能か。

回答 4常任委員会（分科会）の審査日程は別日であることから、所属分科会以外の分科会を傍聴することは可能である。

質問 所管事務調査のテーマとなった事項について、代表質問や一般質問は行わないという申し合わせはされているのか。

回答 申し合わせはないが、自粛している。

質問 各常任委員会は、所管事務調査の実施により機能を強化していることから、今後、特別委員会を設置せず、全て常任委員会で対応することになるのか。

回答 複数の委員会に関係する案件などは、特別委員会を設置し、調査・審査することになる。所管事務調査を開始した平成23年度以後では、広域廃棄物処理調査特別委員会を設置した例がある。

調査結果のまとめ

- ・八尾市議会では、まめっこ議会や河内音頭まつり議会など、子どもや市民を対象としたイベントを継続して開催しており、身近に感じる議会づくりの方策の一つとして参考になった。
- ・本市においても過去には子ども議会を開催しているが、教育委員会が主体であり、議会の関わりは少ないものであった。今後、本市議会においても開かれた議会、身近な議会の取組について考えていかなくてはならないと思った。
- ・全国各地で開かれた議会への取組がされているが、傍聴者数の増加や投票率の向上には繋がっておらず、難しいものであると感じた。
- ・本市には、高校、大学、専門学校などがあることから、本市議会においても主権者教育の推進という観点から、議会と生徒・学生の接点となるような取組を積極的に行っていくべきだと思った。

- ・若い世代に議会について理解してもらうには何をすべきか、どの議会も考えている。どのような取組が傍聴者数の増や投票率の向上、議会・議員の魅力向上に繋がっていくのかという結論は見いだせなかったが、八尾市議会の取組は大変参考になった。
- ・女性の議会傍聴が少ないことから、開かれた議会、身近に感じる議会づくりを進めるうえで、女性にも関心をもっていただけるような取組を考えると良いと思った。
- ・本市議会は、新年度予算の審査については特別委員会で、決算の審査については各常任委員会で行っており、予算・決算ともに十分審査できているが、八尾市議会の予算決算常任委員会による審査体制を知り、決算についても新年度予算のように特別委員会を設置して審査するという選択肢もあるのかと思った。
- ・常任委員会の所管事務調査では、具体的な調査テーマを委員会で一年かけて調査しており、市政の課題についての調査研究の手法として参考になった。
- ・常任委員会委員の任期を2年とすることは、一つの委員会を長く経験することで知見を深めることができ、また、任期を1年とすることは、複数の委員会を経験することで知見を広めることができることから、どちらが良いか比較は難しいが、会派から委員を選出する際の考え方の一つとして参考になった。

- 視察No.2
- ・ タブレットの活用について
 - ・ 開かれた議会、身近に感じる議会づくりについて
 - ・ 委員会機能の活性化について

訪問日時 平成30年1月30日（火） 午前9時30分～午前11時40分

訪問先 所 在 兵庫県西宮市六湛寺町10-3
名 称 西宮市役所
担当部署 議会事務局

説明内容（概要）

西宮市議会は、平成27年11月から議会資料の閲覧方法としてタブレット端末を活用しており、閲覧システムとして、スマートセッション及びサイドブックスの2種類を導入している。また、身近に感じる議会づくりとして「議会体感ツアー」、「バーチャル市議会」を開催している。また、委員会機能の活性化として所管事務懇談会の開催など、様々な議会改革に取り組んでいる。

主な具体的な取組は、次のとおりである。

1 タブレットの活用

平成26年2月、議会改革特別委員会において、議会活性化・透明化促進にかかる提案事項の一つとして「資料のデジタル化（IT化）」が提案され、システム導入についての協議を開始した。プロポーザル方式による業者決定の後、平成27年12月定例会により運用を開始している。なお、タブレットの導入に当たり、使用範囲や禁止事項などの使用基準について「西宮市議会資料閲覧システムの運用に関する要綱」を制定している。今後は、テレビ会議への活用についても検討している。

○システムの概要

（1）タブレット

①機種及び台数

- ・ iPad Pro（10.5インチ）※平成29年10月に更新
- ・ 43台（議員41台、事務局2台）※市当局は未配備

②通信方法

- ・ セルラー方式（LTE回線）※議会棟内のWi-Fi環境未整備
- ・ ソフトバンク（定額7GBプラン）

③その他

- ・ 有害サイトフィルタリングソフト「i-フィルター」を導入

（2）議会資料閲覧システム

議会資料閲覧システムは、利用シーンと用途に合わせて次の2種類のアプリケーションで構成している。

①スマートセッション

会議の効率化、ペーパーレス化をコンセプトとしたアプリであり、本会議、委員会など会議の場で主に活用している。会議の開催日ごとに資料を保存し、会議で使用する資料のみ閲覧できるようにしている。主な機能として、資料の同期機能、全文検索機能（横断検索）、マルチウィンドウ機能がある。

②サイドボックス

議会資料のアーカイブ化をコンセプトとしたアプリであり、審査の事前準備に活用している。資料を内容・種類ごとに保存し、過去資料などの閲覧、検索が可能。主な機能として、全文検索機能（横断検索）、しおり機能がある。

(3) 経費

①議会資料閲覧システム

[契約期間] 平成27年10月1日から平成32年9月30日まで

[費用] 12,701千円（年額2,541千円）

②タブレット

[費用] イニシャルコスト 279千円

ランニングコスト 月額223千円※48台分（年額2,676千円）

③有害サイトフィルタリングソフト「i-フィルター」

[費用] 年額135千円

2 開かれた議会、身近に感じる議会づくり

(1) 議会体感ツアー

議会報告会という形態にとらわれない西宮市独自の効果的な市民参加型の広報・広聴手段として、より多くの市民に議会を知ってもらい、気軽に体感する場として、平成28年10月、議会体感ツアーを開催した。議会体感ツアーは、第41回にのみや市民祭りと共催している。平成29年10月には第2回議会体感ツアーを開催、前年を上回る256名の参加があり大変好評を得ており、今後も実施する予定である。

①実施体制

広報広聴特別委員以外の議員も交えての懇談会を開催、実施内容の協議を行い、当日は議員による議会体感ツアーの進行、会場設営、受付、チラシの配布などを行う。

②概要（平成29年度）

[回数] 12時、13時、14時、15時、16時、17時の計6回

※各回定員48名 約30分～40分間

[内容] 議場においてパワーポイントを利用した議会クイズを実施。終了後は議場での記念撮影を行っている。また、ツアー参加者には、ボールペン及びノートを記念品として配付した。（1セット約95円。チラシ印刷費を含む総費用32,922円）

(2) バーチャル市議会

県立西宮今津高等学校から市議会に対し、市の課題を学び、議員と対話することで理解を深め、市民性を養う機会とするとともに、18歳からの選挙権の意味を学

ぶことを目的とした校外学習の依頼があり、平成28年10月、バーチャル市議会を開催、2年生の30名が参加した。平成29年10月も開催しており、同校の2年生17名が参加している。

①実施体制

正副議長、広報広聴特別委員長を中心に説明・答弁を行う。

②概要（平成29年度）

1) 議会の仕組みを説明（約40分間）

広報広聴特別委員長がパワーポイントを利用して議会の仕組み（二元代表制、議決の流れ、議会クイズなど）の説明を行う。

2) 模擬一般質問（約50分間）

生徒は5つのグループ（3～4人）に分かれ、生徒の質問に対し、正副議長、広報広聴特別委員長などが答弁する。

3) その他

引率教員の総括、議場で記念撮影、昼食会（弁当持参）・懇談会の開催

3 委員会機能の活性化

委員会機能の活性化を目的として、所管事務懇談会をはじめ、様々な議会改革に取り組んでおり、主な内容は次のとおりである。

(1) 所管事務懇談会

委員会の機能を活性化し、より時宜を得た質の高い委員会審査を実現するための準備として正副委員長と市当局による懇談会を定期的に開催する。

①協議内容

- ・委員会所管事項の進捗状況の確認
- ・施策研究テーマについての懇談、報告、提言
- ・委員会開催についての協議

②構成員

- ・正副委員長、市当局、担当書記

③開催時期

- ・原則月1回程度（約2時間）

(2) 施策研究テーマによる調査・研究

市の策定する計画、進行中の大規模事業、重点施策及び市の直面する社会問題などから、それぞれ年間の施策研究テーマを選定し、委員会独自で調査・研究を行う。原則として次年度の6月定例会当初までにテーマに関する報告書を作成し、提言を行う。

(3) 常任委員会運営ガイドライン

すべての委員会が質の高い運営をするため、委員会の運営や正副委員長の職務についての基準として平成27年6月にガイドラインを策定。ガイドラインは、①常任委員会の運営②所管事務懇談会③委員会事前調整会④施策研究テーマ⑤視察の5項目で構成し、委員会運営に関する事項を詳細に定めている。

主な質疑応答

- 質問 タブレットを利用したテレビ会議の内容は。
- 回答 昨年、大津市議会の特別委員会が、タブレットのアプリを活用したテレビ会議による鎌倉市の視察を実施したことを知り、議員がテレビ会議により交流をした経緯がある。今後、議会BCP（事業継続計画）について、大津市議会と当市議会でテレビ会議を実施する予定である。
- 質問 議員は議場でタブレットを利用しているが、傍聴者への対応は。
- 回答 議場に80インチの大型モニターがあり、インターネット中継と同じ映像を映している。会議資料を大型モニターに表示することは技術的には可能であるが、傍聴席から離れているため文字を読むことは困難であることから、傍聴者には紙ベースの資料を配付している。
- 質問 スマートセッションとサイドボックスの費用内訳は。
- 回答 システムの構築、運用、保守などを含んだ契約となっており、年額2,541千円である。当初は、スマートセッションのみのシステム仕様であったがサブシステムとしてサイドボックスを付加したという経過もあることから、アプリケーションレベルでの費用は把握していないが、自庁サーバを設置するスマートセッションが費用の大半を占めている。
- 質問 アプリのメモ機能の利用状況は。また、議員は一般質問や討論においても、タブレットを利用しているか。
- 回答 メモ機能の利用状況は把握していないが、平成29年10月にiPad Proに更新したことにより、文字の書きやすさなど機能が向上している。なお、ユーザーIDは事務局が管理しており、議員個人は資料データの出し入れができないことから、一般質問や討論で議員個人が使用する資料については、紙ベースとなっている。
- 質問 タブレットの一画面で、複数の資料を比較表示することは可能か。
- 回答 マルチウィンドウ機能により表示することは可能であるが、タブレットは画面が小さいことから利用するには工夫が必要である。
- 質問 タブレットは貸与端末と個人所有端末の2台の会議使用を認めているか。
- 回答 タブレットの使用は会議規則の例外的な取扱いとしていることから、貸与端末のみ使用を認めている。
- 質問 タブレットの選定理由は。
- 回答 プロポーザルで提案のあった機種がiPadであったことから選定した。現在のタブレットはソフトバンクからのレンタルであり、端末本体の費用は通信費に含まれている。なお、レンタルのため紛失や故障の場合の保守サービスがある。

質問 議会体感ツアーやバーチャル市議会について、広報広聴特別委員が中心となって取り組んでいるが、負担となっていないか。また、他の委員との温度差はないか。

回答 議会体感ツアーなど、全議員のコンセンサスを得て実施しないと意味がないことからその点は難しいと考えているが、実施に当たっては特別委員以外の議員も交えた懇談会を開催しながら協議を進めており、多くの議員が参加していることから、温度差を感じたことはない。

質問 議会体感ツアーの周知方法は。

回答 議会だよりでの周知のほか、にしのみや市民祭りと共催していることから、市民祭り協議会が発行する案内に議会体感ツアーの開催についての宣伝もお願いしている。また、各議員もブログやツイッターなどでお知らせをしている。なお、当日開催のスタンプラリーに議会体感ツアーを組み込んでいることも、参加者の増加につながっていると考えている。

質問 常任委員会運営ガイドラインにおいて、質疑における反問権の活用について定めているが、実際に権利の行使はあるか。

回答 反問権の行使回数については把握していないが、委員会運営において委員長が必要に応じて市当局に対し反問権の活用について促していることから、実際に反問権の行使はある。

調査結果のまとめ

- ・西宮市議会では、所管事務懇談会を開催し、市当局との定期的な協議を行うことにより、質の高い委員会審査をしている。また、常任委員会運営ガイドラインの作成など大変良い取組であり、本市議会も議会活性化のため取り入れていくべきだと思った。
- ・西宮市議会の委員会運営は、大変進んでいると思った。本市と比較し、西宮市は人口規模、予算規模などが大きいこともあり、必然的に本市議会よりも細分化された委員会運営になったのではないかと感じた。
- ・議会体感ツアーは、議員自ら議会活動を紹介することで、市民に分かりやすく、馴染みやすい取組であり、議会報告会よりも効果があると思った。
- ・議会体感ツアーは、他のイベントに絡めて開催しており、多くの市民に参加いただく効果的な手法であると感じた。本市議会においても、ゴールドenウィークスペシャルなどの市の行事と連携して、市民の方に議会について知っていただく機会を作ることが大切であると思った。

- ・議会体感ツアーは、参加者から大変良かった、おもしろかったといった好意的な感想が多く、素晴らしい取組であった。本市議会もこのような取組について、詳細に検討すべき課題であると感じた。
- ・タブレットの活用について、費用を掛けて新たなシステムを導入することも考えられるが、現在の本市議会でのタブレットの使い方に慣れていることもあり、今のままでも問題がないように感じた。今後、システムが発達して使える機能があれば、研究の余地はあると感じた。
- ・西宮市議会では、タブレットの運用システムとしてメインにスマートセッション、サブにサイドボックスを導入しているが、サイドボックスのみでも便利で使いやすい機能がある。本市議会はシステム費用を掛けない方法でペーパーレス化を進めているが、よりタブレットの活用しやすい環境を整えるという面では、今後もシステムの導入について研究したほうが良いと思った。
- ・タブレットの運用システムにある同期機能について、会議で利用できると良いと感じたが、システム導入に際しては、費用対効果が課題であると思った。